

「大学入学共通テスト」実施初年度入試に向けた指導の状況と今後の見通し

「大学入学共通テスト」の実施を始めとする様々な制度変更がある 2021 年度大学入試は、新型コロナウイルスの感染拡大の影響でさらなる変更が生じている。20 年8月1日時点の変更点をまとめるとともに、生徒の志望動向や学習状況のデータ、6校の進路指導担当者へのヒアリングから、現場の指導状況を捉え、今後の見通しについて考える。

2021年度大学入試の変更点

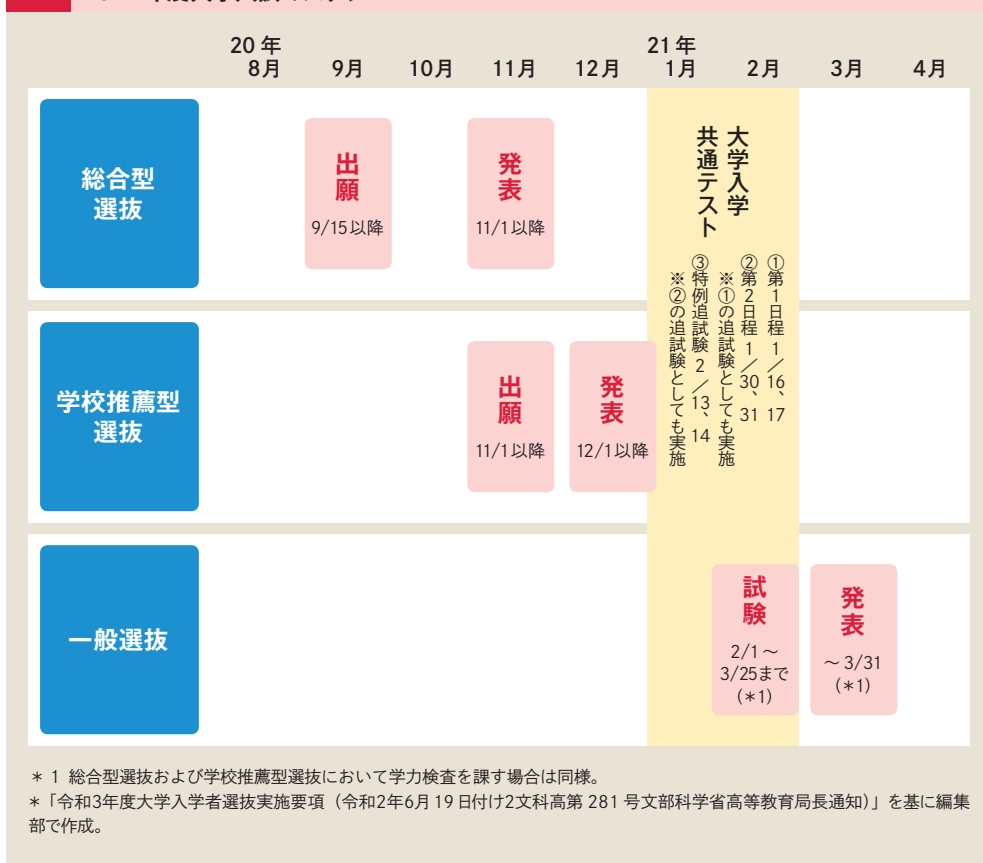
学業の遅れへの配慮から共通テストに第2日程が設けられる

2021年度大学入試からの制度上の主な変更点は、次の通りだ。

まず、「大学入試センター試験」に代わり、「大学入学共通テスト」が導入される。同テストの出題教科・科目は、大学入試センター試験と同じだが、各教科・科目の知識・技能を十分に有しているかの評価を行うにつ、思考力・判断力・表現力を中心に問うのが眼目の共通入試となる。

各大学の個別入試では、入試区分の名称やあり方が変更される。名称については、「一般入試は「一般選抜」、AO入試は「総合型選抜」、推薦入試は「学校推薦型選抜」となる。一般選抜では、筆記試験に加え、調査書や志願者本人が記載する資料等が積極的に活用される。総合型選抜・学校推薦型選抜では、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」も適切に評価するために、調査書等の出願書類だけでなく、各大学が実施する評価方法等、または「大学入学共通テスト」のうち、少なくともいずれか1つの活用が必須とされる。

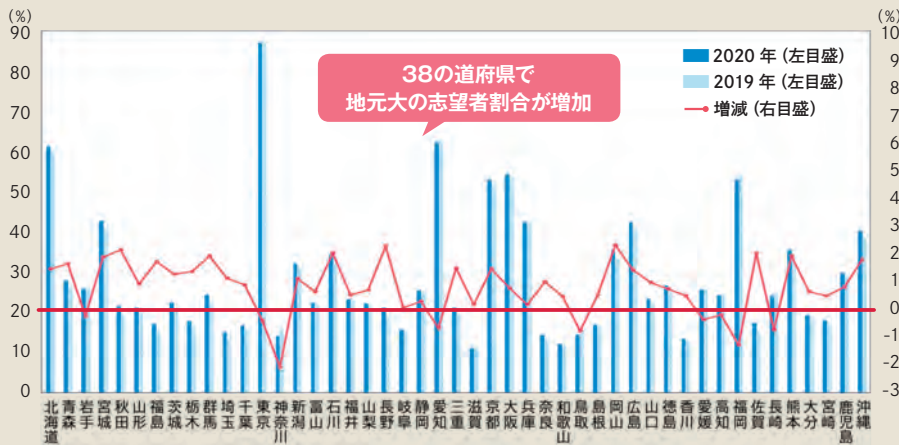
図1 2021年度大学入試のスケジュール



そうした多面的・総合的な評価の充実を図る趣旨から、調査書の様式で、「指導上参考となる諸事項」が拡充され、より多様で具体的な内容の記載が求められるようになる。これまでの表裏の両面1枚という枚数の制

限もなくなる。過年度卒業生は、従前の様式による調査書が認められる。以上が当初の主な変更点だが、新型コロナウイルスの感染拡大を受け、次のような変更点が発表された。まず、入試日程の変更だ（図1）。「大

図2 所属校の所在地と同じ所在地の大学の志望者の割合



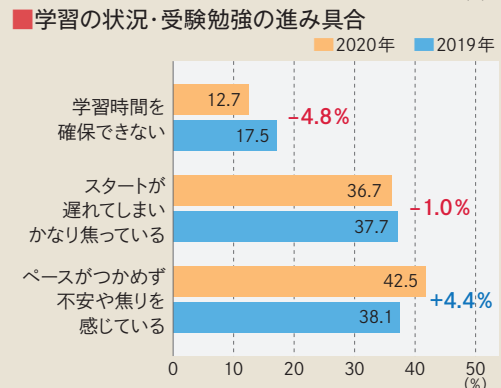
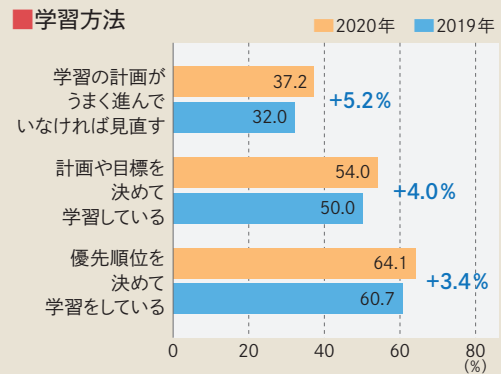
*ベネッセコーポレーション「2020年度大学入学共通テスト模試・6月 2021年度入試動向」を基に編集部で作成。

学入学共通テスト」については、当初の試験日だった21年1月16・17日を第1日程とし、新たに第2日程として同30・31日、特例追試験として2月13・14日が設定された。総合型選抜についても、入学願書受付が9月15日以降となった。加えて、第3学

年の評定の欄は、臨時休業により評定を記載できない場合は、理由を付して記載不可とすることができる。また、文部科学省は、各大学に対して、大会や資格・検定試験等に参加できない場合、志願者が不利益を被らないよう、努力のプロセスや大学で学ぼうとする意欲を多面的・総合的に評価するよう求めた。ICTを活用したオンラインによる面接等を取り入れた選抜を行うことも、選抜方法の工夫として挙げられている。

さらに、出題範囲への配慮として、2年程度前の予告・公表にかかわらず、「大学入学共通テスト」の指定科目を減らすことや、指定科目以外への科目変更を認めることなども示されている。個別学力検査では、高校3年生で履修することが多い科目については、解答する問題を選択できるようにしたり、発展的な学習内容から出題しない、あるいは補足事項等を記載したりするといった工夫を行うものとした。

図3 3年生の学習状況



*ベネッセコーポレーション「スタディーサポート 3年生第1回結果分析」を基に編集部で作成。

多くの県で強まる地元志向

ベネッセコーポレーションが6月に実施した「大学入学共通テスト模試」の受験者総数は、約36万人対前年指数84)だった。設置区分別に志望者数を見ると、国公立大学の志望者数は対前年指数90、私立大学は同78だった。私立大学においては、16年度からの入学定員の厳格化の影響により、ここ数年、難易度が上昇している。それを敬遠して、20年度入試では志願者数が減少に転じ、それを受けた志望動向が継続している。

近年、出身高校の所在地と同じ所在地の大学を志望する生徒の割合が高まっている。今回の模擬試験の都道府県別の志望動向でも、38の道府県で地元大学の志望者の割合が前年度よりも高く、地元志向が強まっている傾向が見られた(図2)。東京都以外の道府県において、東京の大学の志望者数が減少しているのも特徴的だ。

次に、「スタディーサポート」の3年生第1回の結果から、3年生の学習状況を見ていく(図3)。学習方法については、「学習の計画がうまく進んでいなければ見直す」「計画や目標を決めて学習して

いる「優先順位を決めて学習をしていく」のいずれの割合も、前年度比で増加しており、その傾向は1年次から継続している。それは今年度の3年生に、「大学入学共通テスト」が初めて実施される学年としての意識づけが、低学年時からなされてきたからかもしれない。学習時間についても、「学習時間を確保できない」の割合は、前年度よりも減少している。一方、「ペースがつかめず不安や焦りを感じている」生徒は、前年度に比べて増加している。よい学習状況を受験直前まで継続できるよう、生徒の不安感をぬぐい去ることができるような支援が求められると言える。

各校の進路の状況と今後の見通し
指導方針に大きな変更はなし
早めの準備を進める

大学入試制度の変化や新型コロナウイルスの感染拡大を受けた様々な変更により、各校はどのように対応しようとしているのか。6校の進路指導担当者、自校のこれまでの指導状況や生徒の状況、今後の進路指導や学習指導の見通しについてヒアリングを行った(図4)。

<p>愛知県立豊明高校 <small>とよあけ</small> <small>かがまさや</small> 3学年主任 嘉賀正泰</p>	<p>東京都・私立佼成学園女子中学高校 <small>こうせい</small> 教頭 西村準吉</p>	<p>福島県立喜多方高校 <small>きたかた</small> <small>かごま</small> 進路指導部長 風間典子</p>	<p>高校 分掌・氏名</p>
<p>1学年260人/ 国公立大7人、私立大250人(現浪計)</p>	<p>1学年約210人/ 国公立大23人、私立大311人(現役のみ)</p>	<p>1学年約160人/ 国公立大17人、私立大116人(現浪計)</p>	<p>1学年生徒数/ 20年度進学実績</p>
<p>授業進度はおおむね予定通り。学校行事等を見直し、年間授業時数は確保できたため、10月には例年通りの進度に追いつく予定。例年に比べて、総合型選抜への取りかかりが鈍い。オープンキャンパスが開催されず、入試日程が未定の大学が多いため、意思決定も遅れているようだ。大学からの情報は随時出されるため、情報収集力の違いで情報量に差が出そう。</p>	<p>4月からオンライン授業を実施。授業は予定通り進んでいるが、オンライン授業でうまく学習できる生徒と、そうでない生徒に分かれている。集団の学力を測定する機会には乏しかった。進路選択において、大学から直接情報を得たり、友人同士で進路について話したりする機会が少なく、保護者の安全志向に影響されるのではないかと、懸念を抱いている。</p>	<p>理系の数学と理科、文系の地理歴史・公民で予定より授業進度が遅れたため、その対応として、元々実施予定だった平日課外と土曜学習の時間を増やした。新型コロナウイルスの感染拡大を受けて、志望校について話し合う3者面談の前に、首都圏の大学への進学に不安を抱く保護者からの相談があった。志望校検討会で、そうした声があったことを共有した。</p>	<p>これまでの 指導状況、 生徒の状況</p>
<p>【面談での留意点】 大学調べを行う時間は十分にあったはずなので、面談では志望大学・学部とその志望理由を明確にさせたい。入試科目等が変更された大学もあるので、正確な情報収集に基づいた準備が必要。教師が提供する情報は生徒が持つ情報以上であるべきという考えから、学年団とは十分な情報収集を心がけることを共有している。県外の大学の志望者には、地方会場があるか、入試当日はどのように移動するのかなどを確認する。 【学校推薦型選抜の指導】 学校内での1次審査の基準は、入学式で生徒と保護者に説明済みであり、大まかな希望の集約は、3者面談で行った。9月には生徒に出願書類を作成させ、担任・学年団・推薦委員会で精査し、受験の可否を決定する予定。受験決定後には、教師が分担して、受験者に面接・小論文の指導を行う。</p>	<p>【面談での留意点】 面談では、入試方式だけで志望校を選んでいるか、生徒のこれまでの希望進路と、受験校に挙げた大学とを照らし合わせ、志の大切さを改めて聞きたい。学問選択では、新型コロナウイルスの感染拡大の影響や産業構造の変化にも注目させ、従来の進路指導と同様に、社会の変化を見通して自分の道を決めることの重要性を伝える。 【総合型選抜と学校推薦型選抜の指導】 この2つの入試区分は入試日程のすみ分けがされたが、出願時期を考えると、校内選考の日程はほぼ同じ。例年同様、どちらを受験するか迷う生徒が出ている。指導は例年通りで、志望校を早く決め、入試科目と試験内容に対応できるよう伝えてきた。入試日を遅らせる大学と遅らせない大学があり、対応が難しい。併願が可能か、入試科目は何かなど、すべてを確認した上で、併願の日程を組み立てさせたい。</p>	<p>【受験校決定までの留意点】 総合型選抜では、各大学とも募集要項の発表が遅れている。進路指導部では、募集要項の発表時期を大学に問い合わせるなど、情報収集をしている。生徒や学年団は、募集要項の発表後、速やかに事務手続きを行えるよう、事前準備をしている。生徒には、「自分の進路は自分で探す責任がある」と常に話していたが、特に今年は情報収集への意識を高めるよう、進路指導部長からの講話を行った。また、入試科目での負担増が予想されるため、生徒がそれに十分対応できる状況かどうかにも注視して、受験校決定の支援を行いたい。 【受験校決定後の留意点】 総合型選抜では、募集要項をしっかりと確認し、特に提出書類の漏れがないよう注意していく。今年は変更点の多い入試になるため、これまでの経験だけで判断しないことを学年団とも共有した。</p>	<p>進路指導の 状況・ 今後の見通し</p>
<p>【「大学入学共通テスト」対策】 教科別の対策は、3年次1学期の補習から行っている。また、進路講話などでも、「丁寧に、正確に、大きく、濃くマークしよう」と常に生徒に伝えている。自己採点の精度を高められるよう、マーク式模擬試験では毎回、生徒に自己採点の重要性を伝えている。</p>	<p>【「大学入学共通テスト」対策】 例年通り、確かな学力をしっかり身につけさせたい。対策の開始時期は、教科ごとになるが、まずはセンター試験の過去問題を解答できる力をつけることが重要だ。授業では、「大学入学共通テスト」の試行調査の問題や対策用問題集で演習を重ねている。演習問題の内容を工夫しているが、基本事項をしっかり押さえる方針だ。</p>	<p>【「大学入学共通テスト」対策】 各教科・科目とも、センター試験の時と同様、11月から「大学入学共通テスト」対策を始める予定。マーク式対策に多くの時間を費やすことで、記述力が低下してしまわないよう、対策時期も例年通りとしている。授業では、「大学入学共通テスト」の試行調査の問題を踏まえて、問いを工夫している。</p>	<p>学習指導の 状況・ 今後の見通し</p>
<p>教師が根拠をもって指導できているか、生徒一人ひとりの進路を見据えているかが、進路指導で最も大切な点だと考えている。生徒それぞれに対し、時宜を得て面談を行うことを、学年団と共有している。</p>	<p>生徒の志望動向には、大きな変化は見られないが、オープンキャンパスなどには参加できていない。限られた情報で志望校を検討するのはならないのが気がかりだ。</p>	<p>コロナ禍が収束しない場合、首都圏で私立大学の入試を受験した後、国公立大学の前期試験まで登校して学習してよいのか、保護者から問い合わせがあるだろう。そういったことも含めた対応と、指導方針を準備しておきたい。</p>	<p>そのほか 留意している点</p>

「大学入学共通テスト」実施初年度入試に向けた指導の状況と今後の見通し

「大学入学共通テスト」の受験日程については、6校とも「第1日程を推奨する」と回答した。その理由は、個別学力検査の対策期間を十分確保するためだ。また、入試日程がこれまでのAO入試から後ろ倒しになった総合型選抜では、受験の決定に慎重な姿勢が見られた。不合格だった場合、一般選抜への切り換えがすぐに求められるため、その意識を事前に持つように生徒に促すとともに、切り換えの対応ができる生徒かどうかにも留意していくようだ。

総じて、進路指導も学習指導も、大きな方針は例年と変わっていないが、個別具体的な点は、各校とも丁寧に対応している。例えば、調査書の記載事項が拡充されたことを受けて、早めの準備を学年団に促したり、各大学が発信する情報に一層注視し、正確に情報を把握するよう努めたりするといったことだ。

新型コロナウイルスの感染拡大の影響が大きい首都圏や近畿の大学への進学に、懸念を見せる保護者も出てきている。生徒と保護者との間意見の相違がないよう、家庭内での話し合いを促すことが例年以上に必要かもしれない。

図4 各校の進路指導・学習指導の状況 * VIEW21 編集部が、2020年7月下旬に各校に電話でヒアリングした内容をまとめた。

高校 分掌・氏名	沖縄県・私立興南中学校・興南高校 進路指導部主任 沼波岳臣	熊本県立済々黌高校 進路指導主事 篠塚年洋	徳島県立協町高校 進路指導主事 藤澤康二
1学年生徒数/ 20年度進学実績	1学年約350人/ 国公立大48人、私立大273人(現浪計)	1学年約410人/ 国公立大332人、私立大455人(現浪計)	1学年約180人/ 国公立大95人、私立大211人(現役のみ)
これまでの 指導状況、 生徒の状況	臨時休業中にオンライン授業を実施し、学校再開後の土曜日も授業を実施したため、授業進度はそれほど遅れなかった。学校再開後、授業を急ぎ進めてきた影響からか、生徒には精神面の不安などが生じたようだ。その影響が、定期考査や模擬試験の結果に少なからず出ている。例年と比べ、学習内容の定着が不十分な生徒が多く見られる。生徒の志望動向は例年通り。	学年団で1年次から第1志望を諦めさせない指導をしてきた成果もあり、例年以上に難関国公立大学志望者が多い。「大学入学共通テスト」の模擬試験では、英語のリーディングや数学I・Aで得点が伸び悩む生徒が目立ったため、それぞれ対策を進めている。「大学入学共通テスト」は第1日程の受験を想定し、個別学力検査の対策期間を例年通り確保する予定。	生徒は危機感を持って学習しており、例年よりも家庭学習に取り組んでいる。定期考査や模擬試験の結果は悪くはない。生徒の希望進路に大きな変化はないが、学校推薦型選抜志望者が若干増え、進学先を早く決めたいという生徒の思いが感じられる。授業進度が追いついてきたため、「大学入学共通テスト」は第1日程を推奨。出願校決定や対策に時間を取りたい。
進路指導の 状況・ 今後の見通し	【面談での留意点】大学からの情報に注視し、オンラインオープンキャンパスなどに積極的に参加するよう、生徒に勧めている。大学からオンライン大学説明会の案内が個別にきた場合は、校内で希望者を集めて参加させている。 【総合型選抜と学校推薦型選抜の指導】総合型選抜では、入試日程や出願書類などの変更点に注意させている。学校推薦型選抜でも学力試験を実施する大学がある。例年以上に生徒に声をかけて、一般選抜も視野に入れた学力試験対策をしっかり意識させている。 【受験校決定後の留意点】総合型選抜志望者には、活動報告書や学習計画書などの準備を早めに促すよう促した。1年次から蓄積してきたポートフォリオを見返し、活動履歴だけではなく、どんな気づきを得たのか、何ができたようになったのかを自分で言語化できるよう指導している。	【受験校決定までの留意点】総合型選抜では入試日程に変更があったが、その影響もなく、例年通りの指導をしている。生徒の志望を明確に持たせ、総合型選抜・学校推薦型選抜希望者ともに、一般選抜対策の学習にもしっかり取り組ませる。調査書の記載量が増えたため、担任から記載量の目安を質問された。大学に問い合わせたが、明確な回答を得られなかったため、どのように書くべきか、どの程度の量に収めるのか、校内の目線合わせをしたい。既に書き始めた担任もいる。 【受験校決定後の留意点】保護者には、安易に志望校を変更させないようにと理解を求めている。併願校数が増える可能性がある予想しているが、県内には私立大学が多いため、その意味でも、国公立大学志望を買かせたい。生徒には、第2波、第3波に備えて気持ちを引き締めておくことも伝えている。	【面談での留意点】生徒と保護者との間で意思疎通がしっかりできているかを確認したい。県外の大学を志望する場合、保護者とその地域の新型コロナウイルスの感染状況を懸念し、生徒の意思決定に影響を与える可能性がある。 【総合型選抜と学校推薦型選抜の指導】募集人員が増加傾向にある総合型選抜は、志望理由が明確な生徒に勧めている。学校推薦型選抜は、2年次までの活動内容の充実度を振り返らせて受験を検討させたい。両方式とも、十分な出願準備や対策が必要であり、不合格時には一般選抜に向けてすぐに切り換えなければならない。メリット・デメリットの両方を理解させた上で、受験を決定させる。 【受験校決定後の留意点】オンライン面談は、視線や表情など、対面式とは違う留意点がある。特別な対策が必要となるため、学校推薦型選抜の希望が出た段階で指導体制を整えたい。
学習指導の 状況・ 今後の見通し	【「大学入学共通テスト」対策】例年通り、教科書の内容を終了後、本格的な指導を開始する。中高一貫コースでは、夏季休業時から演習を始めるが、今年は夏季休業が短いため、例年行ってきた夏季講座を中止。思考力等が求められる問題については、「大学入学共通テスト」の対策用問題集で対応。授業でも、「説明させる」「理由づけする」など、教師が発問を工夫している。	【個別学力検査対策】例年通り、「大学入学共通テスト」終了後から個別学力検査の対策を始める予定。内容は、志望校別の問題演習が中心となる。出題範囲の変更が検討されているようだが、出題範囲が狭まったとしても、問題の難易度が変わることはない予想している。気を抜かないで演習問題に取り組むよう伝えていく。	【「大学入学共通テスト」対策】10月に教科書の内容の学習を終わらせ、記述や論述の演習を始める予定。マーク式対策は例年11月に始めていたが、今年は12月の期末考査後として、それまでは記述・論述対策を行う。思考力等の育成は通常の授業に組み込み、その評価は「大学入学共通テスト」の試行調査を参考に作問した校内実力テストで1年次から測定してきた。
そのほか 留意している点	生徒の不安を取り除くことに留意し、学校再開後すぐに個人面談を行い、進学説明会も例年より早く実施した。	コロナ禍や入試制度の変更で、生徒は少なからず不安を抱えている。状況が日々変化しても、落ち着いて学習に集中するよう伝え続けたい。経済的に厳しい家庭には、授業料減免や特待生などの情報を個別に提供していく。	SNSやゲームなどに時間を費やし過ぎないように、自身でルールを決めるなどの指導をしている。選択式問題の入試は、得意な問題を選べる利点はあるが、全大学がそうした対応はしないだろう。対策範囲を省かないようにしたい。